

参加者：36名（うち女性7名）

WSの進め方について

- ・第五次総合計画期間において、この様な点が問題となっているなどの検討材料がないと判断できない。誘導的なものでないか。

市 38の基本的施策について平成30年度までの評価を掘り下げないと議論ができないとの意見だが、皆さんの肌感覚で評価をいただけたらと考えている。住んでいる地区によって違った結果が出るかもしれないので、それらを捉えた上で第六次の策定に生かして行きたいと考えている。様々なWSの手法があるが本日はこの方法で行わせていただきたい。

人が元気

- ・越前大仏でガイドをしていた。勝山から大野へ行く観光客は少なかった。大野へ行かない理由を聞いたら「水はどこにでもあるから」と言われた。大野の観光資源は水だけでない。口コミで広まるのがよい。市内のある候補地で足湯を作れないかと考えていて、市職員にも相談している。

コーディネーター 大野を知ってもらいたい。よくしてもらいたいという思いの現れだと思う。総合計画で言えば26番「戦略的な観光の推進」という施策がある。観光のセクターと一緒に考えてもらえるか、パートナーシップを築いてどうやったら進めることができるかということを考えていけたらと思う。

<12 防災・消防基盤の整備>

- ・避難場所について、春日三丁目上区では南小学校か公民館、文化会館へ避難してくださいという通知が来た。避難場所まで歩くのには遠く、高齢者も大変。文化会館がいっぱいで公民館へ行ってくださいと言われた。車で行くにしても駐車場はないし、災害時に通行は難しいのでは。エキサイト広場へ避難すれば分散されて良いのでは。市長と語る会で意見したがうやむやにされ寂しい思いをした。第六次計画では避難計画を盛り込んでいくと聞いているので是非お願いしたい。

市 総合計画とは構想、ビジョン。大きな方向性を示すもの。構想の下の基本計画にいろいろな取り組みが盛り込まれる。この施策の中に人の命や財産を守るということが入ってくる。しかし細かい内容については観光、防災の個

別の計画があり、そちらで検討されることになる。防災に関しては防災マップの見直しなどが進められているので、その中で検討がなされていく。第六次の計画については今始まったばかり。

- ・「安全で安心なまちづくり」という中でできることではないのか。

市 行政の仕事として何より命と財産を守ることが含まれている。しかし総合計画には「ここを避難所にする」といった細かい内容については盛り込まないことをご理解いただきたい。

コーディネーター 総合計画では将来的にどのような街をつくっていかうか、大野市民にどのような気持ちで生活してもらおうか、子どもたちが大人になった時どんな風に生活できる様に準備しておこうかといった大きなものを書くことになっている。総合計画が土台になり、一つ一つの計画に影響を与えていく。議事録として報告書にあげる予定。

< 4 福井しあわせ元気国体・福井しあわせ元気大会の開催 >

- ・国体が終了したが大野で開催したのは自転車、相撲、カヌーであり、競技に関連する施設が何も残っていない。国体部分については削ってはどうか。

< 2 豊かな心を育てる文化力の育成 >

- ・文化施設の整備について市内で問題になっているのは、民俗資料館の整備。議会での市の説明は内山家、大野城と一体感となるようなものにするため、移転するというものだった。補助金が50%もらえることについてを理由にしている。補助率が問題ではない。市民に不信感を抱かれてしまうのでは。

市 市民に役に立つのか、必要かどうか精査すべきという観点は変わらない。本日いただいたご意見は議事録として記録していますので、庁内で情報を共有させていただく。

コーディネーター 行政の中ではそれぞれ担当が分かれている。SDGsもゴールが17に分かれているが、最終的には一つにつながり、全てが網羅されるというもの。大野市もSDGsに取り組むと宣言している。市役所の仕事も全体を見渡し、同様に最終的には一つにつなげて行くとよいということで第六次の計画づくりに取り組んでいるところ。今までの体質を変え、もっと良くなることはないかと取り組む姿勢を持ったということだと考えている。

- ・今日の会議は第六次総合計画の提案を求められているという認識。第五次をベースにしてもよいが、評価については過去のことである。例えば、避難所

の開設については民間の高い建物と協定を結ぶ。今日はこのような提案が求められているのでは。SDGsの説明をされているが、SDGsのどこに当てはまるかということは市職員に任せ、第六次へ向けての提案をもっと聞いてもらいたい。

- ・シールを貼るのに時間がかかっているので貼らなくても良いのでは。これから先、各課で話をしなければならないことに対しても意見をすれば良いのでは。

コーディネーター 各地区で同じ様な形で催しをさせていただいている。シールを貼る時間を5分だけとらせていただき、その時間の間もご意見ある方にはうかがうという環境づくりとさせていただきたい。

- ・机にシールを貼れるようにしておくのと時間の短縮に繋がる。

産業が元気

- ・大きい計画を決める際に、第五次の計画の内容を提示されている。第六次の計画の大きな目標について、これらの中でどれを最優先にすべきかという意思を聞いて欲しいと思っている。
- ・北陸新幹線、中部縦貫道を造っているが、沿線が切り捨てられる。弱者が切り捨てられる。JRだと現状では特急がなくなる。大野がそのときどういう対策をとるかということに市民は不安に思っている。一人暮らしの高齢者宅の屋根雪おろしの問題もある。第五次を策定したときは若い方も多かったが、今の人口構成は当時とは違う。現状に合わせ、若い方が帰ってこられるような地域にするにはどうすればよいかということを盛り込まないといけない。また、Iターンの方には補助金があるが、今現在住んでいる、地元で頑張っていて定着している方への支援はない。その様な人達が外に出て行ってしまっている。このままでは大野がだめになってしまう。ある講演会で、中部縦貫道が全線開通したら大野は素通りされ、潰れると言われた。そうならないための対策を盛り込まなければならない。
- ・ハード事業が進んでいるがボランティアで行われている活動には支援がない。何かしてあげたいが自分が支援してもらうような年齢になってきている。これらの問題を放置しておいたらだめ。

< 2 6 戦略的な観光の推進 >

- ・ JR 越前大野駅前に案内がない。午前中に便利な便がない。観光地に JR 駅前に観光施設がない街はない。大野駅前には警察の派出所も無くなった。
- ・ 大野は人口が減少しているが、鯖江はこれから拡大して行くと言われている。それを学んできて六次の計画に取り込んでもらいたい。

< 雇用の確保と働く環境の整備 >

- ・ 産業団地への企業誘致について、広い面積があるが、売却できるのか。土布子では一つの工場しか入っていない。日本の経済を考えてみれば不利ではないか。

市 産業団地については入居してもらえないとお荷物になる。大野市でこれまで産業団地を作ってきたのは、企業との約束の元にオーダー団地を作ってきた。しかし、現在の企業のスピード感は速くなっており、オーダー団地では間に合わなくなってきた。分譲団地ですぐに対応できるように、という考えで作ったもの。空きができないよう、現在、全力を挙げて企業誘致をしているところ。

自然が元気

- ・ 大野の宝は地下水。きれいな水があるからお米、お酒、お豆腐、醤油などおいしい。企業誘致も良いが、他と競争しても引けを取らないのが地下水であり、良質な食べ物。塩素で消毒していない水を飲めることは自信を持って良い。東ティモールへの支援も、水の恩恵を受けてきた恩返しという形で支援している。第五次の構想実現の柱の中で何が最優先かということは人間の力ではどうしようもできない「自然が元気」。自然が良くないところには産業もこない。何を最優先するかを第六次に反映させてもらいたい。自然は第一に考えるべき。並列ではない。自然が第一にこないと次世代につなぐ持続可能な社会の形成はできないと思う。
- ・ 大野市は環境基本計画というものがある。数値目標について、一人当たりのゴミの排出量は1日800gが当初の目標だったが、変更後は850gになっていた。廃棄物の資源化率の目標値は当初30%だったものが26%になっていた。このように数値を緩めてごまかしたというように市民が感じてしまったら失敗ではないのか。これらも反映させて計画をたててほしい。大野独自のやり方で汚水処理をするなど、最先端のモデルになるようになってほしい。

い。

行財政改革

<健全な行財政の推進>

- ・大野の場合、行財政が大問題で多くの市民が関心を持っている。どうやってこれから税収を上げて、執行して行くかということに関心がある。総合計画といっているが、計画指標を持たずに、単年度ごとに議会に提案して執行している。今年度予算、昨年度決算を見ても非常に厳しい。自主財源は20%。国や県に頼る傾向が強くなっていて、このままいくとバンザイする。財政調整基金も取り崩している。昨年、大雪で福井市の財政が問題になったが、よそごとではない。財政がしっかりしていないと今後10年間の総合計画が成り立たない。第六次の計画策定にあたっては、安心して市民が暮らしていけるよう、財政的な安心感を市民に与えないと、市民が外に出て行き、税収が減って行く。議会で活発な議論を期待したい。
- ・市税は総収入の5分の1。人口は減って行くので税収は増えることは考えられない。市民一人の借金は70万円。市職員に聞いたら合併特例債などはいずれは返ってくるものであるから大丈夫と言っていた。しかし福井市のように、臨時で支出があった場合、耐えられない。職員の中にも危機感がないことが一番心配。危機意識について職員の一体感を出すような取り組みをしてほしい。
- ・3月議会で今年度予算が182億円と聞いた。4月広報で収入と支出額は載っている。2017年度の市債発行額は137億5570万円。前市長にバランスシートまでとは言わないが、負債と基金がどれくらいあるのかの資料を作って欲しいと言った。137億円の負債に対して国からどれだけ戻ってくるのかがはっきりしない。広報にはこれくらいのことは書いて欲しい。
- ・2018年度の負債額は230億円と広報8月号に書いてある。市民一人当たり約70万円。

コーディネーター 大野市は SNS や HP を使って広報しているが、どんな形式であれば情報が届きやすいか。

- ・パソコンなど機器がない場合、新聞。ここに集まったきっかけは市からの通

知。

< 3 6 市民総参加・協働型の市政の推進 >

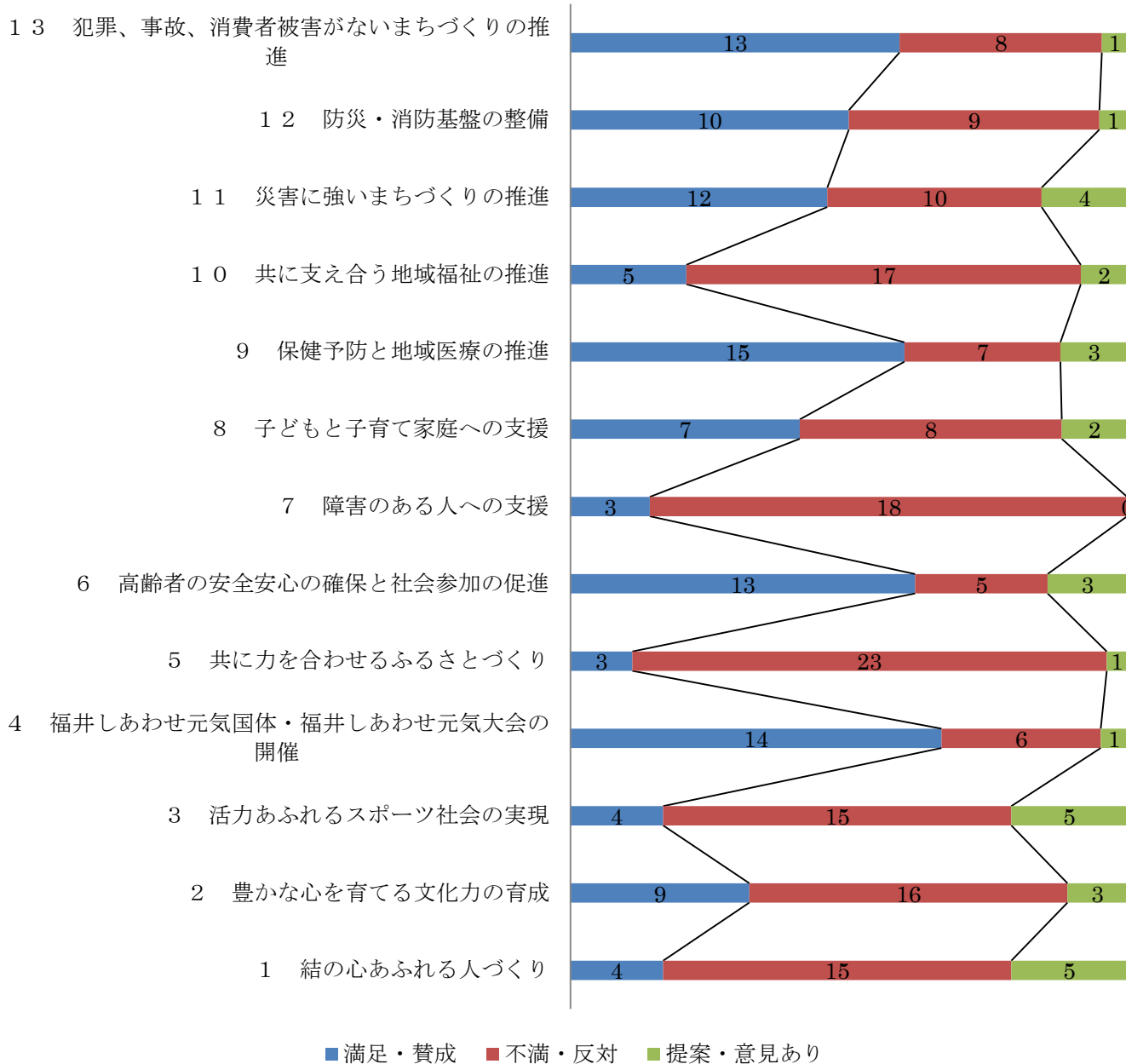
- ・現在の大野市の状況を見ていると、市民総参加、協働型市政の推進とうたっているわりには、情報非開示の部分が多い。市民から付託を受けた市議会議員が職務で資料が欲しい場合、届けが必要。ある問題について担当課に行っても見せてくれない。昔は見せてくれていた。10年経って状況が後退している。届けがないと情報が得られないのはおかしな状況。このような状況で市民に協働と言っても、市民にとっては敷居が高くなり、協働のしようがない。計画の中にうたうのであれば改善していく、世の中の流れを見ていて変だと思ふことは直していくということがないと先に進めないと思う。
- ・経常収支率が厳しい状況で前市政が生んだハコモノ行政が続いている。大型の公共事業は今しないといけないのか。徹底的な検証もなされていないし、しているとしても市民に伝わっていない。その様な中で市民に市政に関心を持ってほしい、この様な場に集まって欲しいと言っても無理。平日夜に開催しても仕事で疲れていて出てくるのは難しい。若者の意見を聞きたいが、この様なことでそのチャンスがない。市民アンケート実施の概要、何件に出して回収状況がどれくらいかの説明はあっても良いのでは。市が頑張っているという姿勢も見せないといけない。

地区 WS のなかで意見集約の参考とするため、第五次大野市総合計画に掲載されている38の基本施策を用いて、普段の生活を通じた『肌感覚』で、「満足・賛成」「不満・反対」「提案・意見あり」のいずれに感じているかを、会場に設置したシートにシールを貼っていただきました。

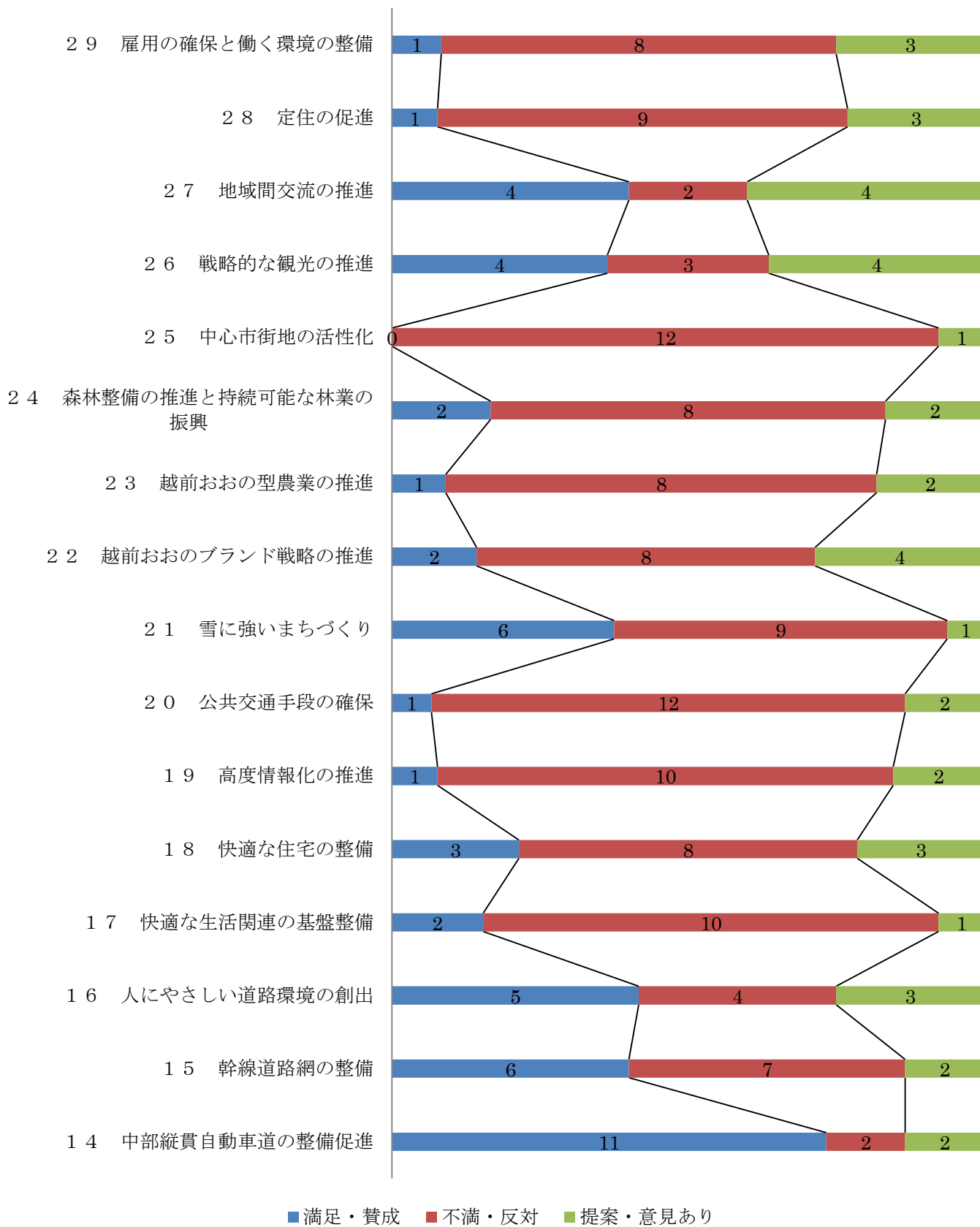
内容を取りまとめた結果は以下のとおりです。

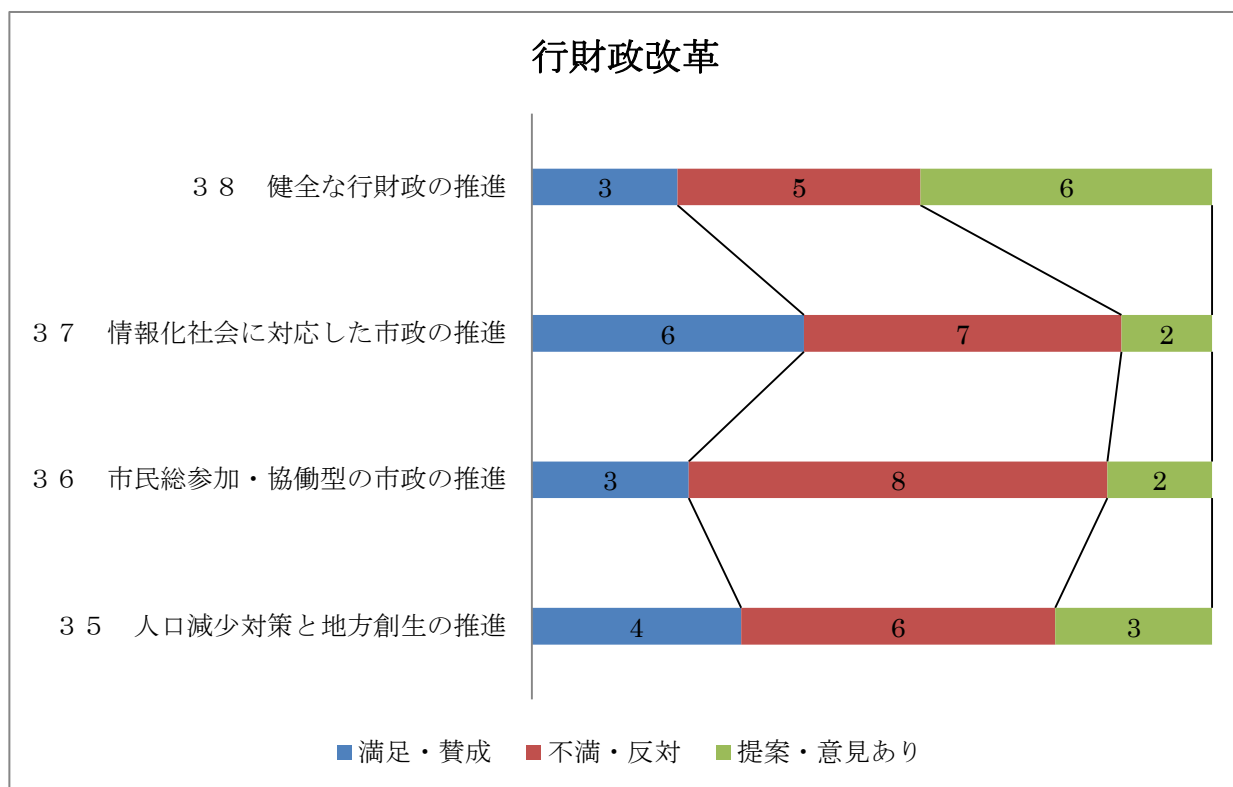
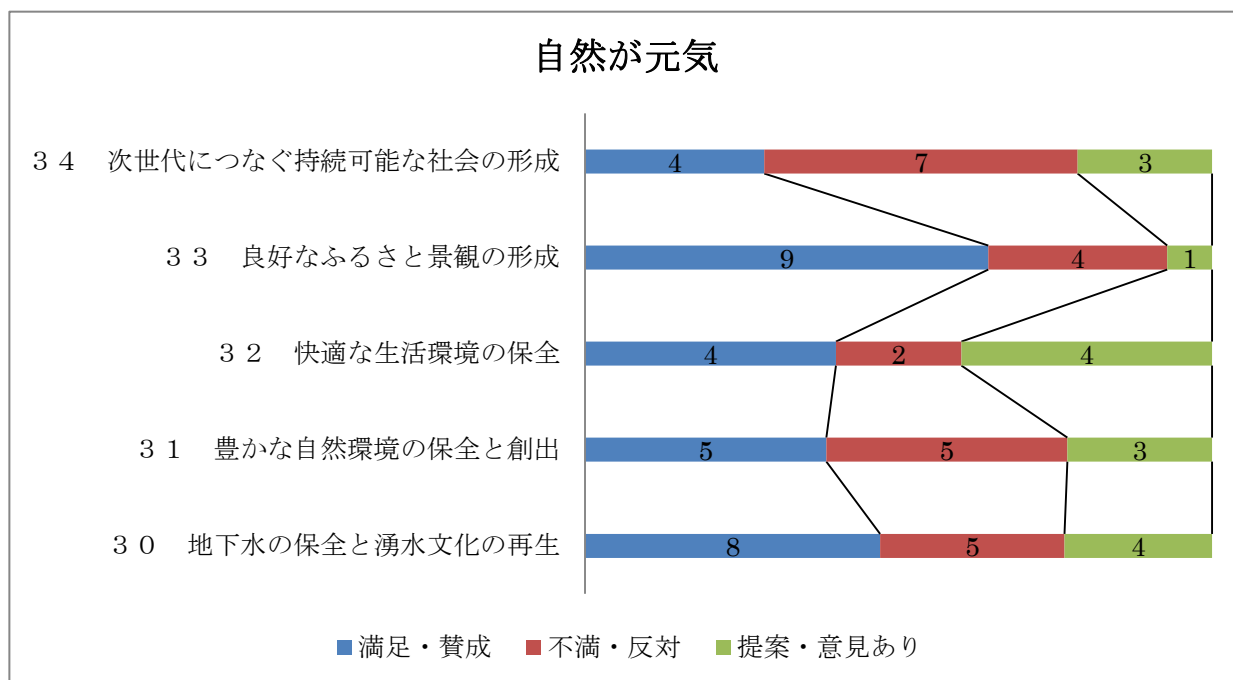
※参加された方にシールを貼っていただいたものをまとめたものですので、地区全体の意見というわけではございません。また、参加された方が全ての項目についてシールを貼られたものではございません。

人が元気



産業が元気





大野地区ワークショップ

2019.8.2

